

機関番号	研究種目番号	応募区分番号	小区分	整理番号
00000	00	0	00000	0000

令和X(20XX)年度 基盤研究(C)(一般)研究計画調書

令和XX年XX月XX日
1版

新規

研究種目	基盤研究(C)	応募区分	一般				
小区分	○○○○○○						
研究代表者 氏名	(フリガナ)	○○○ ○○○○					
	(漢字等)	○○ ○○					
所属研究機関	東京学芸大学						
部 局	下記の「部局一覧」より記入						
職	具体的な職名を記入（教授、准教授、講師、名誉教授、研究員等）						
研究課題名	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ （化学式、数式は極力避ける。）						
研究経費 〔千円未満の 端数は切り 捨てる〕	年度	研究経費 (千円)	使用内訳(千円)				
			設備備品費	消耗品費	旅費	人件費・謝金	その他
	令和X年度						
	令和X年度						
	令和X年度		各年度の経費、総計は、自動集計されます。				
	令和X年度						
	令和X年度						
	総計						
開示希望の有無	審査結果の開示を希望する 「希望する」を選択してください。						
研究計画最終年度前年度応募	--						

- 【部局一覧】
- 教育学部
 - 教育学研究科
 - 先端教育人材育成推進機構
 - 教育インキュベーション推進機構
 - 大学教育研究基盤センター機構
 - 現職教員支援センター機構
 - 連合学校教育学研究科

1 研究目的、研究方法など

本研究計画調書は「小区分」の審査区分で審査される。記述に当たっては、「科学研究費助成事業における審査及び評価に関する規程」（公募要領参照）を参考にすること。

本研究の目的と方法などについて、**4頁以内**で記述すること。

冒頭にその概要を簡潔にまとめて記述し、本文には、**(1)本研究の学術的背景、研究課題の核心をなす学術的「問い」、(2)本研究の目的および学術的独自性と創造性、(3)本研究の着想に至った経緯や、関連する国内外の研究動向と本研究の位置づけ、(4)本研究で何をどのように、どこまで明らかにしようとするのか、(5)本研究の目的を達成するための準備状況、**について具体的かつ明確に記述すること。

本研究を研究分担者とともに行う場合は、研究代表者、研究分担者の具体的な役割を記述すること。

（概要） 概要を10行程度で記述してください。

研究計画調書作成に当たって留意すること

○本留意事項の内容を十分に確認し、**研究計画調書の作成時にはこのテキストボックスごと削除すること**○

留意事項①：

1. 以下の内容を熟読・理解の上、研究計画調書を作成すること。

科研費は、研究者の自由な発想に基づく全ての分野にわたる研究を格段に発展させることを目的とし、豊かな社会発展の基盤となる独創的・先駆的な研究を支援します。

科研費では、応募者が自ら自由に課題設定を行うため、提案課題の学術的意義に加え、独自性や創造性が重要な評価ポイントになります。このため、「基盤研究」、「若手研究」及び「研究活動スタート支援」の研究計画調書様式では、学術の潮流や新たな展開などどのような「学術的背景」の下でどのような「学術的『問い』」を設定したか、当該課題の「学術的独自性や創造性」、「着想に至った経緯」、「国内外の研究動向と本研究の位置付け」はどのようなものか、などの記述を求めています。

審査においては、総合審査又は二段階書面審査における審査委員間の議論・意見交換等により研究課題の核心を掴み、学術的な意義や独自性、創造性など学術的重要性を評価するとともに、実行可能性並びに研究遂行能力も含めて総合的に判断します。

科研費に応募するに当たっては、上記に留意の上、公募要領や審査基準、様式の説明書き等を十分に確認し、審査委員に学術的重要性等が適切に伝わるように研究計画調書を作成してください。

留意事項②：

1. 作成に当たっては、**研究計画調書作成・記入要領を必ず確認すること。**
2. 本文は**11ポイント以上の大きさの文字**等を使用すること。
3. **各頁の上部のタイトルと指示書きは動かさないこと。**
4. 指示書きで定められた頁数は超えないこと。なお、**空白の頁が生じても削除しないこと。**

○本留意事項の内容を十分に確認し、**研究計画調書の作成時にはこのテキストボックスごと削除すること**○

（本文）

ヘッダーやページ番号が変わっていないか注意してください。
本文は11ポイント以上の大きさの文字を使用してください。

【1 研究目的、研究方法など（つづき）】

（1）本研究の学術的背景、研究課題の核心をなす学術的「問い」

（2）本研究の目的および学術的独自性と創造性

（3）本研究の着想に至った経緯や、関連する国内外の研究動向と本研究の位置づけ

（4）本研究で何をどのように、どこまで明らかにしようとするのか

※ 年度ごとの計画なども具体的詳細にここで説明する。

※ （研究分担者がいる場合）研究代表者、研究分担者の具体的な役割も記述する。

（5）本研究の目的を達成するための準備状況

ヘッダーやページ番号が変わっていないか注意してください。
本文は11ポイント以上の大きさの文字等を使用してください。

【1 研究目的、研究方法など（つづき）】

空白ページが生じても、削除はしないでください。

ヘッダーやページ番号が変わっていないか注意してください。
本文は11ポイント以上の大きさの文字等を使用してください。

【1 研究目的、研究方法など（つづき）】

空白ページが生じても、削除しないでください。

4 ページ以内にまとめてください。

ヘッダーやページ番号が変わっていないか注意してください。
本文は11ポイント以上の大きさの文字等を使用してください。

2 応募者の研究遂行能力及び研究環境

応募者（研究代表者、研究分担者）の研究計画の実行可能性を示すため、(1)これまでの研究活動、(2)研究環境（研究遂行に必要な研究施設・設備・研究資料等を含む）について2頁以内で記述すること。

「(1)これまでの研究活動」の記述には、研究計画に関連した国際的な取組（国際共同研究の実施歴や海外機関での研究歴等）がある場合には必要に応じてその内容を含めること。また、研究活動を中断していた期間がある場合にはその説明などを含めてもよい。

(1) これまでの研究活動

(2) 研究環境

○本留意事項の内容を十分に確認し、研究計画調書の作成時にはこのテキストボックスごと削除すること○

※留意事項：

1. 研究業績（論文、著書、産業財産権、招待講演等）は、網羅的に記載するのではなく、本研究計画の実行可能性を説明する上で、その根拠となる文献等の主要なものを適宜記載すること。
2. 研究業績の記述に当たっては、当該研究業績を同定するに十分な情報を記載すること
（例として、学術論文の場合は論文名、著者名、掲載誌名、巻号や頁等、発表年（西暦）、著書の場合はその書誌情報など）。
3. 論文は、既に掲載されているもの又は掲載が確定しているものに限って記載すること。

○本留意事項の内容を十分に確認し、研究計画調書の作成時にはこのテキストボックスごと削除すること○

ヘッダーやページ番号が変わっていないか注意してください。
本文は11ポイント以上の大きさの文字等を使用してください。

【2 応募者の研究遂行能力及び研究環境（つづき）】

空白ページが生じても、削除しないでください。

2ページ以内にまとめてください。

ヘッダーやページ番号が変わっていないか注意してください。
本文は11ポイント以上の大きさの文字等を使用してください。

3 人権の保護及び法令等の遵守への対応（公募要領参照）

本研究を遂行するに当たって、相手方の同意・協力を必要とする研究、個人情報の取扱いの配慮を必要とする研究、生命倫理・安全対策に対する取組を必要とする研究など指針・法令等（国際共同研究を行う国・地域の指針・法令等を含む）に基づく手続が必要な研究が含まれている場合、講じる対策と措置を、**1頁以内**で記述すること。

個人情報を伴うアンケート調査・インタビュー調査・行動調査（個人履歴・映像を含む）、提供を受けた試料の使用、ヒト遺伝子解析研究、遺伝子組換え実験、動物実験など、研究機関内外の倫理委員会等における承認手続が必要となる調査・研究・実験などが対象となる。

該当しない場合には、その旨記述すること。

【記載例】

本研究は〇〇実験を行うため、所属機関の研究倫理委員会（環境安全委員会）において実験計画の承諾を得たうえで実施し、定められた手続きに基づいて行う。

調査対象者及び保護者には事前に調査目的・方法等について文書にて説明を行い、書面での同意を得る。研究協力は任意であり、途中で中止しても良いことをあらかじめ伝える。

撮影の際は肖像権に配慮し、個人が特定できる撮影は控える。

個人情報を含むデータは匿名化して統計的に処理し、ファイルはパスワード管理し、ネットワークから遮断されたパソコンのみで使用する。データ及び資料等は外部に持ち出さず、研究室内の施錠可能な棚に保管し管理する。

研究終了後はシュレッダーで裁断後に破棄する。

データを公表する際は被験者が特定できない形をとるよう留意する。

調査地（保護区域）に関しては事前に許可申請を行う。

ヘッダーやページ番号が変わっていないか注意してください。
本文は11ポイント以上の大きさの文字等を使用してください。

4 研究計画最終年度前年度応募を行う場合の記述事項（該当者は必ず記述すること（公募要領参照））

本研究の研究代表者が行っている、令和6（2024）年度が最終年度に当たる継続研究課題の当初研究計画、その研究によって得られた新たな知見等の研究成果を記述するとともに、当該研究の進展を踏まえ、本研究を前年度応募する理由（研究の展開状況、経費の必要性等）を1頁以内で記述すること。

該当しない場合は記述欄を削除することなく、空欄のまま提出すること。

研究種目名	課題番号	研究課題名	研究期間
			令和 年度～令和 6年度

当初研究計画及び研究成果

10行程度で記述してください。
該当しない場合は、空欄のままにしてください。

前年度応募する理由

10行程度で記述してください。
該当しない場合は、空欄のままにしてください。

年度	設備備品費の明細					消耗品費の明細	
	品名・仕様	設置機関	数量	単価	金額	事項	金額
RX	〇〇分析機器 (〇〇精機・A-123)	東京学芸大学	1	800	800	実験用品 (〇〇)	50
RX	◇◇関係図書	東京学芸大学	20	3	60	データ保管用HDD (△社・B-01、20,000円×2台)	40
RX	調査用ノートPC (Apple MacBookPro)	東京学芸大学	1	300	300		
RX				計	1,160	計	90
RY						調査用ICレコーダー (◆社・C-1、20,000円×3台)	60
RY				計	0	計	60
RZ	データ分析ソフト (SPSS)	東京学芸大学	1	100	100	データ処理ソフト (△△)	50
RZ				計	100	計	50
※ 年度の入力間違いがないか確認。 ・同一年度に同じ物品・事項が計上されていないか。 ・最終年度にPCや実験機器が計上されていないか。 ・研究目的・研究方法と齟齬がないか (次頁の「旅費・人件費・その他」も同様)。							
※ 金額は千円単位になっているか (千円未満は切り捨て)。							
※ 明細は2ページが増えても構わない。ページ右上の () に枝番号が記載される。							
※ 文字のサイズは自動調整されるため、品名・事項等の文字数が増えても見切れることはない。							

設備備品費、消耗品費の必要性

上記明細に入力されている項目の必要性・積算根拠について入力してください。

例) 〇〇分析機器は●●実験のために必須な機材である。

「設備備品費」が当該年度の全体の研究経費の90%を超える場合及び「消耗品費」で特に大きな割合を占める経費がある場合には、当該経費の研究遂行上の必要性についても説明が必要です。

年度	国内旅費の明細		外国旅費の明細		人件費・謝金の明細		その他の明細	
	事項	金額	事項	金額	事項	金額	事項	金額
RX	実地調査(〇〇県、3名、3日間)	150	実地調査(中国、3名、5日間)	450	研究補助(データ入力)(1,080円×60H×1名)	64	実地調査用レンタカー代、ガソリン代	20
RX							研究会用会議室借用料(3回)	12
RX	計	150	計	450	計	64	計	32
RY	研究会参加(△△県他、1名×3日×3回)	210	講師招聘旅費(イギリス、1名、7日間)	515	専門的知識の提供(7,000円×8H×1名)	56	調査交通費(都内日帰り9回)	9
RY					実験被験者謝礼(5,000円×30名)	150		
RY	計	210	計	515	計	206	計	9
RZ	学会発表(〇〇県、1名、3日間)	80	研究成果発表(開催地未定、2名、5日間)	400	翻訳謝金	32	資料複写費	20
RZ							学会参加費	10
RZ							論文校正委託費	50
RZ							論文投稿料	15
RZ							◇◇データ分析委託費	200
RZ							ホームページ作成委託費	100
RZ	計	80	計	400	計	32	計	395

※ 時給、旅費等は妥当な金額か。

・最終ページに参考資料として「国立大学法人東京学芸大学謝金単価基準」の「謝金基準単価表」を載せてあります。

旅費、人件費・謝金、その他の必要性

上記明細に入力されている項目の必要性・積算根拠について入力。

いずれかの年度において「旅費」又は「人件費・謝金」のいずれかの費目が当該年度の全体の研究経費の90%を超える場合及び「その他」で特に大きな割合を占める経費がある場合には、当該経費の研究遂行上の必要性についても説明が必要です。

※本欄はPDFファイルには出力されません。

JSPS
 科研費電子申請システム ヘルプ

応募情報参照 (研究費の応募・受入等の状況) Japanese > English

令和X(20XX)年度 XXXXXXXXXX 研究計画調書

【研究費の応募・受入等の状況】

- 「役割」、「研究経費」、「エフォート」のリンクをクリックすることで、応募中の研究費または受入予定の研究費の一覧を指定したソート順に並び替えることができます。

研究代表者氏名	代表 一郎
研究期間	20XX年度～20XX年度
研究課題名	〇〇〇〇〇〇についての研究

(1) 応募中の研究費

役割	1.資金制度・研究費名(配分機関名) 2.研究期間 3.研究課題名 4.研究代表者氏名	20XX年度 研究経費 (期間全体額) (千円)	20XX年度 エフォート (%)	研究内容の相違点及び 他の研究費に加えて本応募研究課題に応募する理由等 (左記の研究課題に応募するに当たっての所属組織・役職) (科研費の研究代表者の場合は、研究期間全体の受入額を記入すること)
代表	1.【本応募研究課題】XXXXXXXXXX	9,999,999	XX%	総額 9,999,999千円
	2.20XX年度～20XX年度			
	3.〇〇〇〇〇〇についての研究			
	4.代表 一郎			
分担	1.基金研究(S)	9,999,999	XX%	総額 - 千円
	2.20XX年度～20XX年度			
	3.〇〇〇〇〇〇についての研究			
	4.			

(2) 受入予定の研究費

役割	1.資金制度・研究費名(配分機関名) 2.研究期間 3.研究課題名 4.研究代表者氏名	20XX年度 研究経費 (期間全体額) (千円)	20XX年度 エフォート (%)	研究内容の相違点及び 他の研究費に加えて本応募研究課題に応募する理由等 (左記の研究課題を受入れるに当たっての所属組織・役職) (科研費の研究代表者の場合は、研究期間全体の受入額を記入すること)
代表	1.基金研究(S)	9,999,999	XX%	総額 9,999,999千円
	2.20XX年度～20XX年度			
	3.〇〇〇〇〇〇についての研究			
	4.			
分担	1.基金研究(S)	9,999,999	XX%	総額 - 千円
	2.20XX年度～20XX年度			
	3.〇〇〇〇〇〇についての研究			
	4.代表 二郎			

(3) その他の活動	XX%
(1)、(2)、(3)のエフォートの合計	100%

閉じる

別表1

謝金基準単価表

NO.	種別	単価	備考	所得税の取扱
1	経営協議会委員等謝金	20,000 円/回	経営協議会委員及び教育諮問会議委員	月(乙)・日(丙)
2	会議出席謝金	10,000 円/回	協力者会議等 1回あたり2時間を標準とする	月(乙)・日(丙)
3	特別講演謝金	50,000 円/回	著名人による記念講演的性格を有するもの 1回あたり2時間を標準とする	報酬
4	一般講演謝金	30,000 円/回	1回あたり2時間を標準とする	報酬
5	指導講師謝金①	7,000 円/時間	専門的知識の提供 (講義・実技指導等)	報酬
6	指導講師謝金②	5,000 円/時間	専門的知識の提供 (研究集会等における指導・助言)	報酬
7	教育研究補助等謝金①	1,200 円/時間	専門的知識・技術等を必要とする業務	月(乙)・日(丙)
8	教育研究補助等謝金②	1,080 円/時間	一般的な教育研究補助業務 予算都合による単価の下限については、東京都 最低賃金まで可とする。	月(乙)・日(丙)
9	カウンセラー謝金	3,500 円/時間		月(乙)・日(丙)
10	医師等謝金①	25,000 円/回(半日)	医師・歯科医師 1日の場合は原則2倍以内	月(乙)・日(丙)
11	医師等謝金②	10,000 円/回(半日)	看護師・保健師・臨床検査技師等 1日の場合は原則2倍以内	月(乙)・日(丙)
12	原稿謝金(日本語)	1,500 円/枚	400 字	報酬
13	原稿謝金(外国語)	3,000 円/枚	300 語	報酬
14	原稿校閲謝金(日本語)	800 円/枚	400 字	報酬
15	原稿校閲謝金(外国語)	2,100 円/枚	300 語	報酬
16	表彰状筆耕謝金	1,000 円/枚	名誉教授・永年勤続(名前・日付等)	所得税なし
17	卒業証書筆耕謝金	300 円/枚	学位記を含む	所得税なし
18	立看板等筆耕謝金	4,000 円/枚	4,000×1,000mm 程度	所得税なし
19	同時通訳謝金①	56,000 円/日	英語	報酬
20	同時通訳謝金②	63,000 円/日	英語以外の外国語	報酬
21	逐次通訳謝金	5,800 円/時間		報酬
22	翻訳謝金①	3,200 円/枚	和文英訳(和文 400 字)・和文中訳(和文 400 字)	報酬
23	翻訳謝金②	2,200 円/枚	英文和訳(英文 300 語)・中文和訳(中文 300 字)	報酬
24	チューター等謝金	1,080 円/時間	予算都合による単価の下限については、東京都 最低賃金まで可とする。	月(乙)・日(丙)
25	ホームステイ協力謝金		※別表2による	所得税なし
26	教育実習協力校謝金		※別表3による	所得税なし
27	現場実習等委託謝金		※別表4による	所得税なし
28	連携コーディネーター協力謝金		※別表5による	所得税なし
29	論文査読謝金	3,000 円/件	本学が刊行する学術雑誌の学外査読者	報酬

◎本表は、標準的な単価(上限)を示したものである。執行にあたり、予算額、事業内容を勘案し、必要に応じて調整することは可能である。

◎本表により難しい場合は、事前に財務・研究推進部長と協議のうえ単価を定めるものとする。

◎報酬にかかる居住者の所得税は 10.21%、非居住者(外国に居住している者)は 20.42%である。

◎報酬の用務に併せて旅費を支出する場合、旅費についても所得税の対象となるので、謝金事前伺書、旅行命令伺書の上部余白に「旅費有」、「謝金有」と明記すること。